

「先生に依頼してよかったです」 そう言われる家庭教師になるために

Manual

学習指導方針

行動指針

1対1の学習指導者になるあなたに知ってほしいこと

家庭教師のオアシス
笠井伸春

この度は、家庭教師のオアシスに登録のご希望を頂き、誠にありがとうございます。

家庭教師のオアシスは、平成12年ごろから志を持ったチームとしての活動を始め、徐々に地域の信用を得るようになってきました。そして、これからも闇雲に大きな組織にするのではなく、生徒を伸ばすための確かな学習サポートを目指し、責任ある活動を続けていきたいと考えています。

そのためには、これから同じチームとなるあなたにも同じ目的意識を持っていただく必要があります。(もちろん、あなた自身のスキルアップも目的にしていただければ幸いです。)

ですから、(ほとんどの方には失礼な表現になってしまいますが)決められた時間に言わされたことだけやれば時給がもらえる、それだけが目的、というようなバイト気分では登録しないようにお願いします。

指導方法については、まずは各教師の持つやり方を尊重します。(経験が浅く、具体的なアドバイスが必要なときはご指導します。勉強会も行っております。)

ここでは、ベースとなる考え方や共通して守って頂きたい重要事項を記します。

以下の事項のすべてに同意していただくことが、オアシス教師としての共通の条件になりますので、しっかりと確認ください様お願いします。

生徒を自立型に変化させること

管理・強制ではうまくいかない

私(笠井)自身、大学生のときから現場で個別学習指導を続けていますが、失敗を繰り返した経験から、確かな結論に達したことがあります。それは、生徒の状態を無視して一方的に管理したり強制したりしようとすると、長期的にはうまくいかない、ということです。少なくとも自立した学習からは遠ざかります。

仮に、例えば1ヶ月後のテストの点数がいくらか上がったとしても、やらされているだけなので、2ヶ月3ヶ月経てば次第にやる気がなくなり、自ら学ぶ姿勢は身につくはずもなく、勉強嫌いのできあがりです。

こんなことが何度かありました。生徒にやる気がない、けれども、親御さんの要望で、徹底的に生徒の時間を管理しました。ノートのとり方から問題集の効果的な使い方やその他学習ノウハウを繰り返し説明し、こと細かく日々の学習メニューを立案し、その計画が実行されているか、私が作成した学習計画表に毎日親御さんからサインをもらう。必要であれば、生徒本人から私の携帯に「今日の分は終わりました」という連絡を毎晩義務付けて、とにかく損得を説きつつ生徒に勉強を強制しました。

その方法論で、モチベーションの高い生徒ならこちらの思惑通り上がりました。ところが、そうではない多くの生徒の場合、成績は思うように上がりません。実行すれば、必ず上がるはずの学習メニューなのに、です。原因が分からず、悩みました。「生徒の根性が足りないのだ」と生徒の責任にしていた時期がありました。

しかし、あるときに生徒の状態を記録したノートを見返すと、管理すればするほど、生徒のモチベーションが下がっていることに気が付きました。

では、いったいどうすればいいのか。

モチベーションが低い生徒でも成績を上げるのが得意なプロ講師が、オアシスにもいます。3ヶ月～半年で、中学5教科だと100点アップは珍しくありません。そして彼らプロ講師に必ず共通している考え方があります。

それは、

- 「自分からやるようにクセ付けすること」
- 「すぐ教えずに自分で調べさせる」
- 「できるようになると楽しくなることを感じさせる」
- 「私の受験体験を話して励ます」

など言い方はいろいろですが、つまり、やらされている状態から自立型の学習に変化させることを常に考えているのです。

自立型の学習が身につくと、普段の学習に対する行動が大きく変わりますので、目に見えて結果が出るようになります。

自立型に導くには

家庭教師を依頼されるご家庭のご要望のひとつは「やる気を持たせて欲しい」というものです。生徒にやる気を持たせるための手法は生徒一人ひとりのセルフイメージや学習履歴などの状態によります。初期段階では単純なティーチングでモチベートできる時期があるケースもあれば、コーチング的なモチベートが必要な場合も多いでしょう。その前に、必要不可欠なことが2つあると考えています。

1つ目は、教師が生徒にとって見本となる人物像であること、です。
短い時間でも教師がどんな考え方を持っているか、無意識的にも伝わってしまうものです。
学校の先生をイメージしてもらっても分かると思いますが、この人の話は聞きたくない、と思ってしまうと、何を言っても伝わりません。まずは、教師自身が、何か目標に向かって進んでいることや、活き活きとした人物である必要があります。

2つ目は、信頼関係です。信頼関係を作るには、まず、生徒がどんな性格でも、どんな状態でも100%受け入れてあげることから始まります。コツは、五感を使って自分が今のこの生徒だったら、どういう風に考えたり、感じたりするだろうかと想像し、それを口にしてみることです。そして、たとえ今がどうでも、実はこの生徒はすごい可能性と秘めた能力をすでに持っていることをあなた自身がしっかりと認識・イメージすることです。(最悪なのは、「どうせ無理だろう」「やっても無駄かも」という教師の思い込みです。可能性のない子はいません。)

その上で自分の役割と想いを「～くんの志望校合格をサポートしたい」「～高校(大学)に受かった～くんをみてみたい」などと自分の言葉で伝えながら、心が開いたら一緒に学習目標を決めていきます。ここまででは、生徒によりますが、数週間はかかると思ってください。

以上が、ベースとなる考え方です。以下は具体的な事項やお願いです。

生徒、保護者との対話

繰り返しますが、生徒とは人間的に向き合うようにしてください。教師にはまず「聞く力」や「感じる力」が求められます。これが信頼を生み、信頼がこちらの熱意を伝えてくれます。目線を合わせた授業を心がけることです。逆に生徒のやる気をそぐような「なんでできないの?」「前やった問題なのに」などという言葉は、特別な場合を除いて、禁句です。

これができれば、宿題もきちんとやるはずです。

補足) 励ましの言葉「がんばれ」もモチベーションが高い状態でない限りは、よくないです。「～の試験でこうなったらしいね」「うまくいって笑顔で卒業したいね」など、生徒のよい未来を意識させる言葉がベター。

また、親御さんと接するときは、学習指導に関して自信を持った態度であることが大事です。不安感を与えてしまわないようにします。

親御さんは、意外と子どもと本当のコミュニケーションをとれていない場合もあり、子どもの考えていることや、テストの点数しか学習状況を知らなかつたりして、心配しています。(だから家庭教師を依頼されるわけです。) 学習指導報告書は詳細に記入し、帰りに保護者の方からサインを頂くときなどには、「今日は、～をやりましたが、基本的な問題はできるようになりましたよ。」「今日は重要連語をみっちり暗記しました。集中できていましたよ。」などと、一言話すようにしましょう。

→できれば連絡ノートを作つておくと良いでしょう。大学ノートなどでOK。

※その他、業務上の連絡事項(授業日時の変更など)が生じた場合は、必ず、保護者の承諾を得るようにして下さい。(日時などは生徒とだけで決めないこと)

授業の構築方法について

1対1の個別指導は、生徒のニーズから始まります。固定のカリキュラムではその生徒に標準がっているとは限らず、効率的ではない可能性があるからです。まず、生徒のニーズや学習歴・学力状況を把握し、その生徒本人にあった最適なカリキュラムや学習スタイルを提案し、実行する必要があります。

～大まかな授業の流れの例～

- ①計算トレーニング(簡単な問題を5分～10分でできる量で)
- ②前回の宿題のチェック→(必要なら)前回の内容理解のチェック
- ③計画に沿ったその日の授業
- ④残り10分は、その日の内容をまとめさせる(この間に連絡ノート記入)
- ⑤次回までの自主学習の指示

次に授業内容ですが、受験前までは現在の学校での授業範囲を優先します。ただし、理解できていない事項が見つかった場合は、前の単元に戻って復習する必要があります。(例:「疑問詞のある疑問文」を教えていたら、「普通の疑問文」の作り方が理解不十分であることが分かったので、戻って復習した。)

各分野の理解度を把握するには、確認テストや模擬試験などの答案を判断材料にします。(生徒には授業で使うので、答案用紙は返却されたら必ず見せるように伝えておくこと)

得意分野・苦手分野を把握したら、短期的に集中すべき科目・分野を決めます。入試科目を伸ばすことを最終目標にし、伸びる可能性の高い分野を選びます。大抵の場合は、苦手分野の克服です。やむを得ず入試まで十分な時間がない場合は、出題頻度が高い基本レベルの分野を優先してできるようにします。コツは焦らず、繰り返して、確実に、です。

教材について（教材はオアシスが用意できます）

オアシスでは教材販売はしておりません。しかし、いわゆる学習塾専用教材は用意できます。

新たに問題集などが必要な場合、生徒のレベルと目的に合わせて、用意できますので、オアシスまでご相談ください。教師が自分で代理購入する場合はご父兄に事前に同意を得た上で購入してください。

問題集の使い方について・・・2冊を1回やるより、1冊を2回やった方が学習効果が高い場合が多いです。これと決めたテキストは、2~3回繰り返してやるといいでしょう。1回目は、答えを直接テキストに書き込まずに適当な用紙(コピー用紙やルーズリーフなど)を使い、答え合わせで間違えた問題をチェックしたら、管理しやすいように各ページにテープで留めておくと便利です。2回目以降の最終段階のときは直接書き込んで完成させてもいいでしょう。（正答率が高い場合は、2周目以降は、誤答した問い合わせをやっていくのがいいでしょう。）

中学生の場合、3年秋以降は入試問題(過去問、生徒が学校で購入したもの。なければオアシスで用意します)も平行して進めます。そこで弱点が見つかったら、問題集などを使って同分野をマスターするよう指導します。

教師主体の授業の重要性～家庭教師の落とし穴～

学習効果の高い授業に不可欠なもの・・・それは、指導性です。優秀な進学塾などではしっかりと枠組みが先にあるので、結果が出やすいです。学習指導に流れがあるからです。そして、前述のとおり、家庭教師の場合、生徒にとって最高のカリキュラムを作成できるので、最も効果的な学習指導が可能なのです。

教師の皆様にはこのような教師主導型の学習指導を意識して頂きたいと思います。

もしも、この点を曖昧にしたまま指導すると1対1であるが故の落とし穴があります。

今まで、こういう事態に陥ったことはありませんか？

教師：「先週どこやったっけ？」

生徒：「先週やったのは、ここだけど。でも今日、学校でやったこの問題が分かららないから、この問題を教えてほしい！」

教師：「よっしゃ！それじゃあ、その問題を見せてみい。学校の問題をやろう・・・」

これは、生徒に迎合して、先生としての指導性を發揮することなく、生徒の目の前のニーズにだけしかこたえられない、そういう状態です。質問に答えているだけでは成績はまず上がりません。目的に合わせて計画性を持って指導しないといけません。

長期目標（志望校合格）・中期目標（各テスト対策）から落とし込んだ月単位（または週単位）の学習カリキュラムを設計していくことです。集団指導は、先に枠組みがありますが、1対1の個別指導は、その生徒の傾向（学習履歴）を把握した上で計画を作成する手順になります。

そしてあなたが作成した学習カリキュラムに沿って学習指導を実行していきます。そうすると、教師は、今、学習計画のどの位置にいるのか把握していますので、指導性が保たれます。

教師：「前回の宿題やったか？」

生徒：「ちょっとわからんかった問題はあるけどやったよ」

教師：「じゃあ答え合わせをして、分からなかつた問題からはじめるね」

生徒：「今日、学校で難しい問題があったからそれを教えて・・・？」

教師：「今日の予定が終わったあとにね」

長文をお読みいただき、ありがとうございました。

しかし、まだまだ学習指導のコツは奥が深く、
自分自身も自己成長できるすばらしい仕事です。

共感できる方、ピンときた方、是非「求人の詳細を知りたい」とご連絡ください！

0776-53-5677 笠井まで